

563-399



1200501513449

563

399

商取引組織及系統二  
関スル調査(清酒)

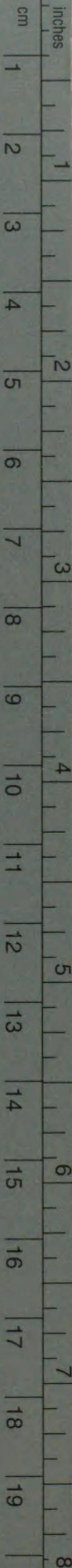
国立国会図書館

# Kodak Gray Scale



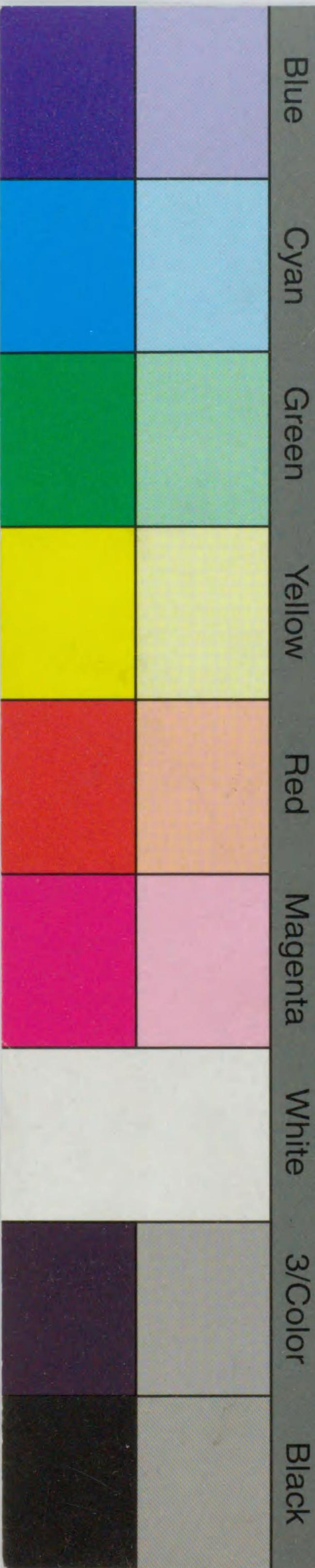
© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

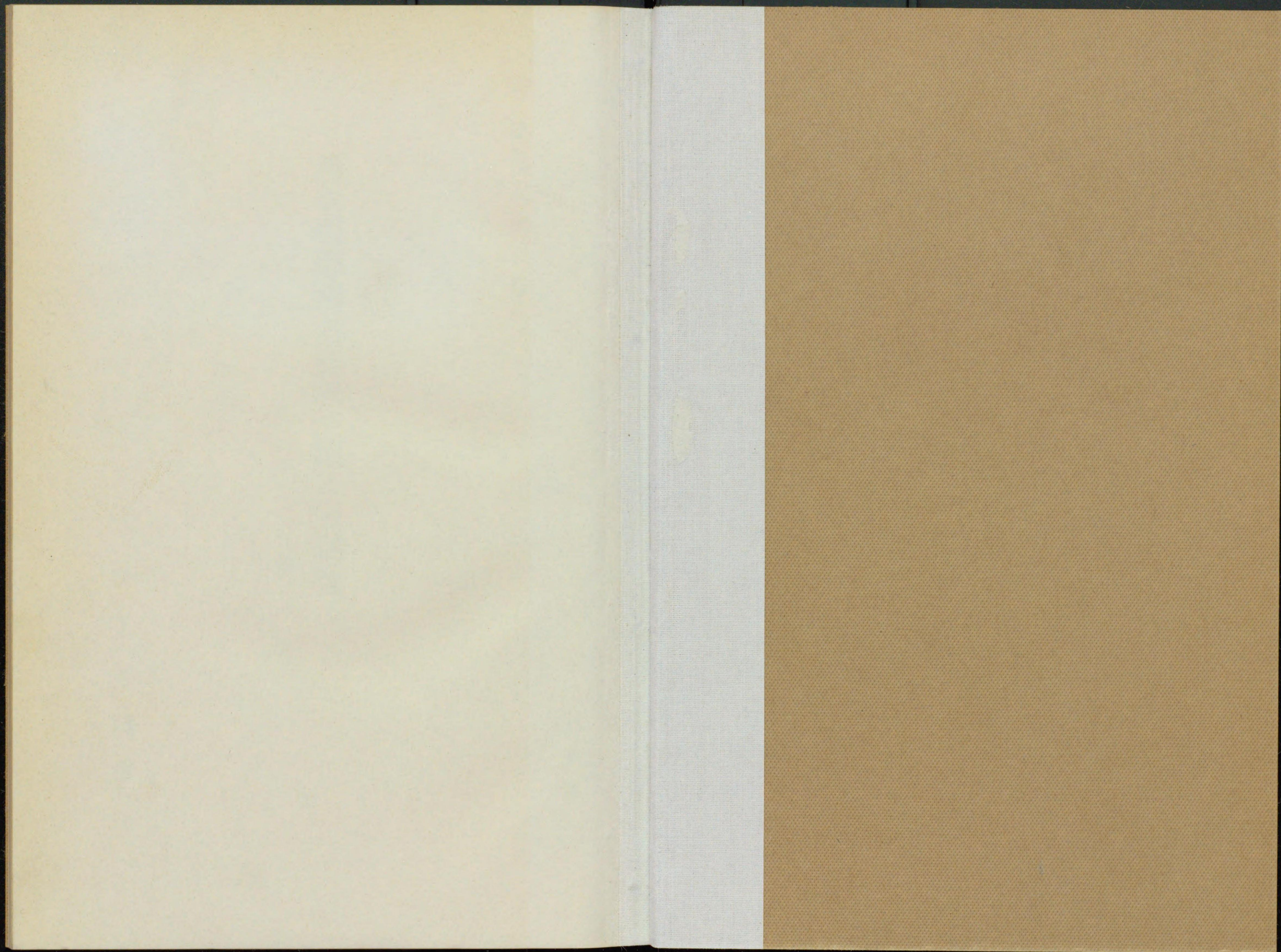


# Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak









213973

昭和六年一月

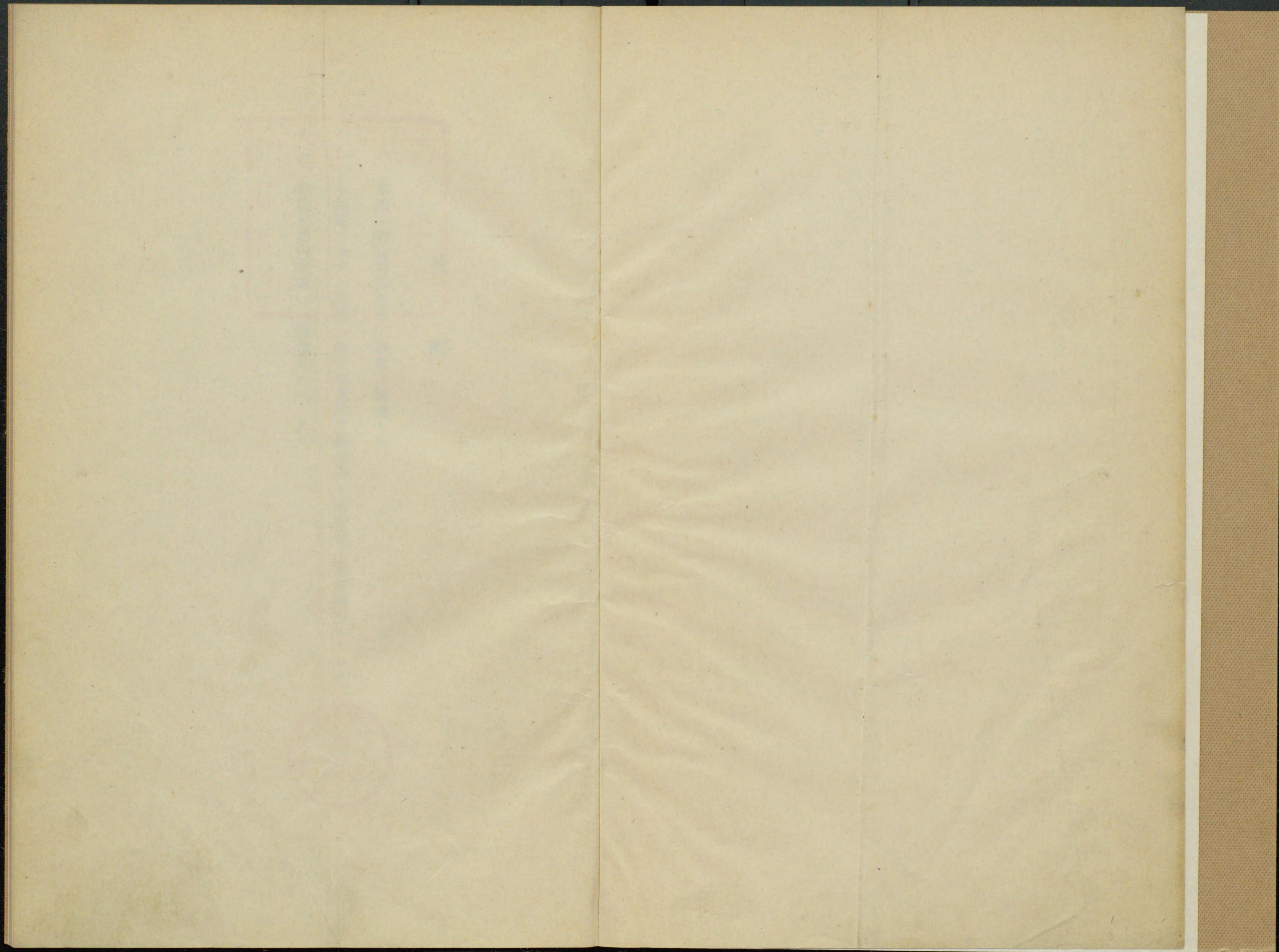
商取引組織及系統ニ關スル調査

(清酒)

商工省商務局

(代筆寫)





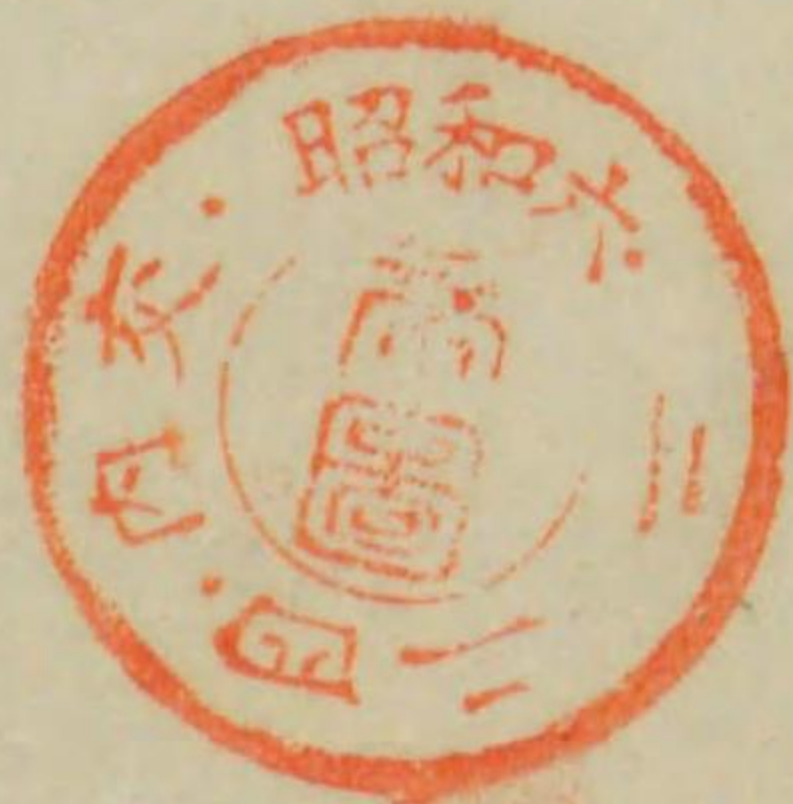




凡

例

一、本篇ハ昭和四年九月ノ調査ヲ基礎トス  
 二、本調査ニ於テハ大體ニ於テ生産地ヲ灘地方ニ消費地ヲ東京地方ニトレリ  
 三、本篇ハ屬山田政一ノ調査セルモノナリ





604-437

商取引組織及系統ニ關スル調査 (清酒)

目次

第一章 概況……………一

  一、清酒ノ生産狀況……………一

  二、消費狀況……………三

  三、輸出狀況……………四

  四、釀造方法及商標……………五

  五、釀造時期及出廻時期……………六

第二章 生産地ニ於ケル酒造業者、東京市場ニ於ケル配給業者並各其ノ團體……………八

  一、灘五郷ニ於ケル酒造業者……………八

  二、東京市場ニ於ケル配給業者及其ノ團體……………九

第三章 取引系統……………一三

第四章 取引方法……………一七

  一、各取引者間ノ注文方法……………一七





二、受渡方法及時期……………一八

三、取引單位……………一九

四、銘柄……………一九

五、價格決定ノ方法……………一九

六、代金決済ノ方法……………二〇

第五章 荷造、運輸、貯藏及金融……………二二

一、荷造、包裝及其ノ費用……………二二

二、貯藏……………二五

三、金融……………二六

四、運輸……………二七

第六章 清酒價格構成ノ要素……………二九

一、樽詰物……………二九

二、壺詰物……………三七

第七章 酒類取引ノ現在ニ於ケル實情……………三九

第八章 酒類取引ニ於ケル缺陷及之ガ改善ニ關スル意見……………四四

# 商取引組織及系統ニ關スル調査(清酒)

## 第一章 概況

### 一、清酒ノ生産狀況

清酒ハ果シテ現在ニ於ケルガ如キ品質ノモノナリヤ否ヤハ明カナラザレドモ、遠ク古代ヨリ存シタルコトハ舊記ニ依ルモ明カニシテ、爾來今日ニ至ル迄長日月ニ亘リ國民ノ嗜好品トシテ廣ク需要セラレタルガ、今日ニ於テハ内地全國年釀造高ハ昭和三年度商工統計ニ依レバ四、八〇四、〇三五石、其ノ工場數九、六三一(兼業ヲモ含ム)ニ達スルノ状態ニ在リ。其ノ經營組織ハ從來ハ主トシテ個人營業ナリシモノナルガ、近時次第ニ合資、合名、或ハ株式ノ如キ大企業組織ニ革メラレ、又釀造方法ノ如キモ漸次從來ニ於ケルガ如キ舊式ナル方法及設備ヨリ近代的方法及設備ニ改メラレツツアリ。

清酒製造場數及製造高 (昭和三年商工統計)

年次	製造場數 (九月末日現在)		製造高
	本業	兼業	
大正十二年	九、九五五	六一	五、五五四、五九七石



563  
399

大正十三年	九、九四八	六〇	五、四四九、〇八〇
大正十四年	九、八六三	五二	五、一七九、九八二
大正十五年	九、七五九	四八	五、一四七、五三五
昭和二年	九、五八七	四四	四、八〇四、〇三五

清酒ノ醸造高ガ、前記ノ如ク相當ノ量ニ達スルニ伴ヒ、清酒醸造原料用トシテ使用セラルル所謂造酒米ハ、年々少ナカラザル量ニ及ビ、即左表ニ示スガ如ク、造酒米ハ我國ニ於テ消費セラルル米穀ノ約七分ヲ占メ、此ノ方面ニ振向ケラルル米穀ハ實ニ飯米ニ次グ實情ニ在リテ、酒造米ガ食糧問題考究上常ニ重要視セラルル所以ノモノ亦此ノ理由ニ基クニ外ナラズ。

米穀用途別消費高 (自大正九年十一月一日至同十年十月末日農林統計ニ依ル)

種類	内地米	朝鮮米	臺灣米	外國米	計
飯米	五、六五、七三石	二、〇七、九三	二、六、五八	四、五、六三	四、四、八八
種子	七、九、九七石	—	—	—	七、九、九七
酒類	四、一七、〇四石	—	—	—	四、一七、〇四
菓子及餡子	三、七、三〇石	—	—	—	三、七、三〇
餅	三、〇三、〇三石	—	—	—	三、〇三、〇三
麵	二、七、一、九一石	—	—	—	二、七、一、九一
醬、味噌、油	三、六、八、五石	—	—	—	三、六、八、五
糊	二、六、七、五石	—	—	—	二、六、七、五
其他	一、三、〇、〇七石	—	—	—	一、三、〇、〇七
計	五、七、八、一石	二、〇、六、三	二、六、五、八	四、五、六、三	五、七、八、一

而シテ、清酒ハ國內到ル處ニ於テ醸造セラルレドモ本品ノ醸造ハ其ノ用米及氣候風土ト密接ナ關係アルヲ以テ、主要産地ハ自ラ一定シ、内地ニ於テハ兵庫、京都地方特ニ之ニ適シ、前者ハ年産額約七十萬石、後者ハ降ツテ二十萬石ニ達ス。其他十萬石以上ノ生産アル地方ヲ舉グレバ左ノ如シ。

府縣別清酒製造場數及製造高 (昭和三年商工統計)

府縣別	製造場數 (九月末日現在)		製造高	府縣別	製造場數 (九月末日現在)		製造高
	本業	兼業			本業	兼業	
北海道	一五〇	二	一三一、九五六石	京都	三〇一	—	二一七、一八二
秋田	一五六	—	一二〇、九〇九	兵庫	七六一	—	七二四、三六四
山形	二〇五	—	一三二、五八二	岡山	四一六	—	一五二、七四二
福島	三一四	—	一四九、五八四	廣島	四三一	—	二一〇、九六五
埼玉	一六八	—	一〇五、六四六	山口	四三八	—	一二六、二七四
新潟	三〇四	—	一四六、四三八	愛媛	三五八	—	一三二、五六八
長野	三七八	—	一五五、八三二	福岡	三六七	—	二四一、七六〇
愛知	三八一	—	一四〇、一三一	大分	三一八	—	一〇二、一七八

二、消費狀況

清酒ノ消費額幾何ナリヤハ、據ルベキ統計書ナキヲ以テ之ヲ詳ニスルコト困難ナルモ大體ニ於テ庫



出シタル數量ヲ以テ消費量ト見テ大差ナキモノト認メラルルニ依リ、今主稅局統計ニ付見ルニ

大正十四年酒造年度 (酒造年度ハ前年十月ヨリ翌年九月マデ) 五、七〇三、一四〇石

大正十五年度 五、四三四、四五八石

昭和二年度 五、四六九、五八二石

ヲ示シ居レリ。(尤モ右ハ清酒ノミナラズ濁酒、白酒、味淋、燒酎等ヲモ含ム)之ニ依リテ見ルモ窺知シ得ルガ如ク、消費數量ニ年々差シタル増減ナク、大勢ハ寧ロ減量ニ傾クノ感アリ。其ノ原因ハ多々アルベキモ、近時麥酒、洋酒等ニ對スル國民ノ嗜好漸次深メラレ、清酒ノ需要ガ之等ノ爲メ次第ニ蠶食セラレツツアルト、教育ノ普及ニ伴ヒ、次第ニ禁酒節酒ノ機運ヲ醸成シツツアル等與ツテカアルト見ルコトヲ得。消費市場ハ消費階級ガ都市ニ集中シ居ル關係上、勿論都市ニ多ク又品種別消費階級ヲ見レバ灘、京都、堺、秋田ノ如キ上等品ハ主トシテ上層階級ニ、所謂地酒ハ下層階級ニ消費セララルコト勿論ナリ。

### 三、輸出狀況

清酒ハ本邦獨特ノ酒類ニシテ、之ニ對スル趣味モ殆ド本邦人ニ限ラルルヲ以テ、勿論國內消費ヲ對象トシテ釀造セララルモノナルモ、尙海外ニ對シテモ年々相當ノ輸出ヲ見ツツアリ。其ノ主ナル仕向先ハ關東州及支那ニシテ各百萬圓擲ノ輸出アリ。而シテ之等ハ仕向先コソ内地ニハアラザルモ、仕向

地外國人ノ嗜好セララルコトハ少ク、其ノ多クハ在留本邦人ノ用ニ供セララルルニ過ギズ。

清酒ノ主ナル仕向地別輸出量 (昭和二年大日本外國貿易年報)

國別	仕向量及價格		國別	仕向量及價格	
	數量	價額		數量	價額
關東州	九、一二三 <sup>石</sup>	一、二七二 <sup>千円</sup>	香港	九八 <sup>石</sup>	一四 <sup>千円</sup>
支那	八、四三三	一、二二〇	海峽殖民地	九一	一八
加奈陀	一、〇三三	一七七	蘭領印度	五〇	八
比律賓諸島	一五一	二六	合計	一八、九七九	二、七三五

### 四、釀造方法及商標

清酒ノ製法ハ先ヅ原料タル白米ヲ蒸シテ蒸米トシ、之ニ種麴ヲ播種シテ麴トス。次ニ麴ト蒸米ト水トノ三者ヲ以テ酒母ヲ作ル。酒母ノ一定量ニ蒸米、麴、水ノ三者ヲ前後三回ニ分割添加シテ醱酵セシム。此ノ混合物ヲ稱シテ醱(諸味)ト稱ス。醱酵ノ期間ハ凡ソ十五日乃至十八日間ニシテ醱酵終了セバ、次ハ壓搾器ニテ搾汁スルナリ。斯クテ得タルモノガ、即新酒ナリ。新酒ヲ十數日又數十日間靜置シテ種々ナル浮遊物ヲ沈澱セシメ、其ノ清澄シタルモノヲトリテ熱ヲ加ヘ、攝氏五十五度乃至六十度ノ溫度トス。此ノ作業ヲ稱シテ火入ト言フ。火入ノ目的ハ新酒ヲ爛熟セシムルニ必要ナル溫度ヲ與



へ且新酒中ニ存在スル各種ノ微生物ヲ殺菌スルナリ。通常火入期ハ三、四月ノ候ニシテ其レヨリ夏期ヲ超エ九月ニ至リテ古酒トシテ市場ニ販賣ス。

清酒ハ大體ニ於テ商標ニ基キ賣買セラルル慣習ナルガ、商標ハ其ノ性質上勿論酒造家毎ニ之ヲ異ニシ、又同一酒造家ノ酒類ト雖モ、同一商標ヲ用ヒズ、其ノ品質顧客ノ注文ニ依リ種々異ナリタル商標ヲ用ヒ、既ニ清酒商標トシテ登録スベキモノ見當ラズトナセルガ如キ實情ナリト言フ。商標ノ多數ナルコト上述セルガ如キモ、今參考ノ爲メ灘酒有名品ニ付見ルモ

白 鶴	嘉納合名會社	澤ノ鶴	石崎商店
櫻 正宗	山邑酒造株式會社	富久娘	花木合名會社
菊 正宗	本嘉納商店	大 關	長治郎商店
白 鹿	辰馬吉左衛門商店	泉 正宗	泉仙介商店
忠 勇	若林合名會社	月桂冠	鈴木商店

ノ如ク其ノ種類多數ニ上ル。

五、釀造時期及出廻時期

釀造時間ハ一月ヨリ三月迄ニシテ、此ノ間ハ荷動キ極少ナク、最モ出廻數量多キハ季節的關係ヨリ四、五月ノ所謂陽期ニ多ク、六月ヨリ八月ハ暑氣ノ候ナル爲メ、需要ハ主トシテ麥酒ニ移リテ出廻少

ナク、次イデ九月ヨリ年末迄ハ釀造用米ノ仕入期ヲ控ヘテ、資金ヲ要スルト正月用ノ爲メ出荷増加スルノ慣習アリ。其ノ荷動狀態ハ大體驛着荷狀態ニ依リ推知シ得ルヲ以テ、茲ニ汐留驛月別着荷數量ヲ示セバ左ノ通ナリ。

昭和三年九月	五九二車	昭和四年三月	三三一車
同 十月	九五八車	同 四月	三七七車
同 十一月	八三五車	同 五月	五二九車
同 十二月	一、二四三車	同 六月	二七九車
昭和四年一月	四一一車	同 七月	三二五車
同 二月	三九九車	同 八月	一八四車



## 第二章 生産地ニ於ケル酒造業者、東京市場ニ於ケル配給業者竝ニ各其ノ團體

以下清酒ノ取引ヲ研究スルニ當リ、醸造家竝ニ消費地ニ於ケル清酒取扱業者ノ性質、分野竝ニ各其ノ團體ニ付一應知悉シ置ク要アルモノト認メラルルニ依リ、左ニ順次之ニ付略述セントス。

### 一、灘五郷ニ於ケル酒造業者

本邦内主要造酒地中、特ニ名聲顯著ニシテ造酒高ノ多キ地方ハ兵庫縣灘方面ニシテ、俗ニ灘酒ト稱セラルルモノハ此ノ地方ヨリ産出セラルルモノニ外ナラズ。灘トハ兵庫縣武庫郡鳴尾村武庫川口ヨリ、神戸市ノ東端生田川口ニ至ル灣ヲ稱シ、此ノ灘沿岸五里ニ亘ル諸町村ヲ指シテ灘郷ト稱シ、更ニ之ヲ今津郷、西宮郷、東郷、中郷、西郷ニ分チ、之ヲ鐵道驛ニ付テ示セバ、東海道線ノ東灘、住吉、蘆屋、及西宮ノ四驛ヲ中心トナス地方ヲ稱ス。現在灘五郷ニ於ケル酒造業者ハ百餘名ニ達シ、之等酒造業者ノ醸造スル高ハ毎年四五〇、〇〇〇石ニ達ス。而シテ之等酒造業者ハ其ノ行政區劃ニ依リ、酒造組合法ニ基ク酒造組合ヲ設ケ居レリ。現在灘五郷ニ於ケル酒造組合ヲ示セバ左ノ如シ。

組 合 名	事務所々在地
今津郷酒造組合	武庫郡今津町

西宮郷酒造組合	西宮市鞍掛町
灘魚崎酒造組合	武庫郡魚崎町
灘御影酒造組合	武庫郡御影町
灘西郷酒造組合	神戸市西郷町

### 二、東京市場ニ於ケル配給業者及其ノ團體

#### (一) 酒問屋ノ種類

東京ニ於ケル酒問屋ハ、主トシテ京橋區新川筋及日本橋區茅場町ヲ中心トシテ蝟集シ、其ノ數約七十名ニ及ブモ、等シク酒問屋ト難モ其ノ取引形態ニ依リ左ノ四通ニ分ケラル。

- (1) 灘方面ノ關西酒ヲ醸造家ヨリ委託ヲ受ケテ販賣スルモノ
- (2) 灘方面ニ於ケル醸造家が直接東京市場ニ販賣部ヲ設クルモノ
- (3) 灘方面以外ノ酒類ヲ專ラ取扱フヲ主トシ偶々灘方面ノ酒類ヲ醸造家ヨリ直接移入シ又ハ前記(1)若クハ(2)ノ問屋ヨリ分割ヲ受ケ賣捌クモノ
- (4) 灘方面以外ノ生産者ノ出張店即前記(2)ニ相對スルモノ
- (5) 以上ノ孰レニモ屬セザルモノ

而シテ之等(1)(2)(3)(5)ニ屬スル問屋ハ、各其ノ營業態様ヲ等シクスルモノノミ相集リテ、夫々自己ノ



團體ヲ設ケ居レリ。即(1)ノ主トシテ灘方面ノミノ酒類ヲ取扱フモノハ、酒問屋組合ヲ、(2)ノ灘釀造家ニシテ東京ニ販賣部ヲ設クルモノハ、甲東會ヲ、(3)ノ主ニ灘以外ノ酒類ヲ取扱フモノハ、酒類問屋組合ヲ、(5)ノ其ノ孰レニモ屬セザルモノハ、更新會ナル團體ヲ組織シ居リ、又之等(2)(3)及(5)ノ諸團體ヲ統一スル團體トシテ、別ニ中央酒類問屋聯盟會ナルモノアリ。尤モ之等問屋業者ハ、以上ニ記述セル通必ズシモ營業態様ヲ限ラレタルモノニアラズ、以上ハ唯取扱酒又ハ販賣形態ニ依ル大體ノ限界ヲ示シタルニ過ギズ。從テ場合ニ依リテハ酒問屋組合員ガ灘以外ノ酒ヲ取扱フコトアリ。又酒類問屋組合員ガ甲東會ニ屬スル釀造家ノ販賣部ヨリ仕入ルルコト等モアリテ、必ズシモ取引關係、取扱酒ガ一定シ居ルモノト言フコトヲ得ザルナリ。而シテ酒類ノ問屋業者ハ斯クノ如ク、孰レモ團體ヲ設ケ居レルモ、各團體トモ事業トシテハ見ルベキモノナク、現在ニ於テハ單ニ親睦團體タルニ過ギザル模様ナリ。

一般ニ問屋ハ、今日ニ於テハ次第ニ其ノ勢力衰微シ行ク傾向アルモ、嘗テハ酒造家ニ對シテハ、原料資金ノ貸與ヲナシ、又ハ小賣業者ニ對シテ營業資金ノ貸與ヲナシ、若クハ其ノ生活ヲ援助スル等、酒類業界ニ在リテハ專制的勢力ヲ有シタルモノナリ。而シテ斯クノ如ク變化ヲ生ジタル所以ヲ索スルニ、酒造家ガ消費市場ニモ進出シ生産ヲナスト同時ニ販賣ヲ行フニ至レルコト及取引ノ改善ノ結果、問屋トシテノ機能ガ漸次減殺セラレツツアル等ノ關係アルモノト見ルコトヲ得。

## (二) 酒類仲買商、仲次商、卸商

消費市場ニ於ケル配給業者トシテハ、問屋業者ト小賣業者トノ間ニ、猶仲買商、仲次商又ハ卸商ナル仲介業者ヲ介在スルコトアリ。之等ハ新川筋、茅場町以外ノ市内ニ散在シ、問屋ト小賣トノ間ニ在リテ、配給上ノ斡旋ヲナスカ又ハ直接酒造家ヨリ入荷シ之ヲ小賣業者ニ賣捌キ、或ル意味ノ問屋ト小賣トヲ兼ヌルモノナルモ、特ニ之ヲ專業トナスガ如キモノナク、其ノ多クハ小賣ト兼業ヲナスモノ大部分ヲ占ム。而シテ之等仲介業者ヲ介シテ荷ヲ買付クルハ、勢ヒ仕入値段ヲ昂メ、從テ利益歩合ノ減少トナルヲ以テ、配給組織ノ上ニ於テハ次第ニ淘汰セララル傾向アリ。

## (三) 小賣業者

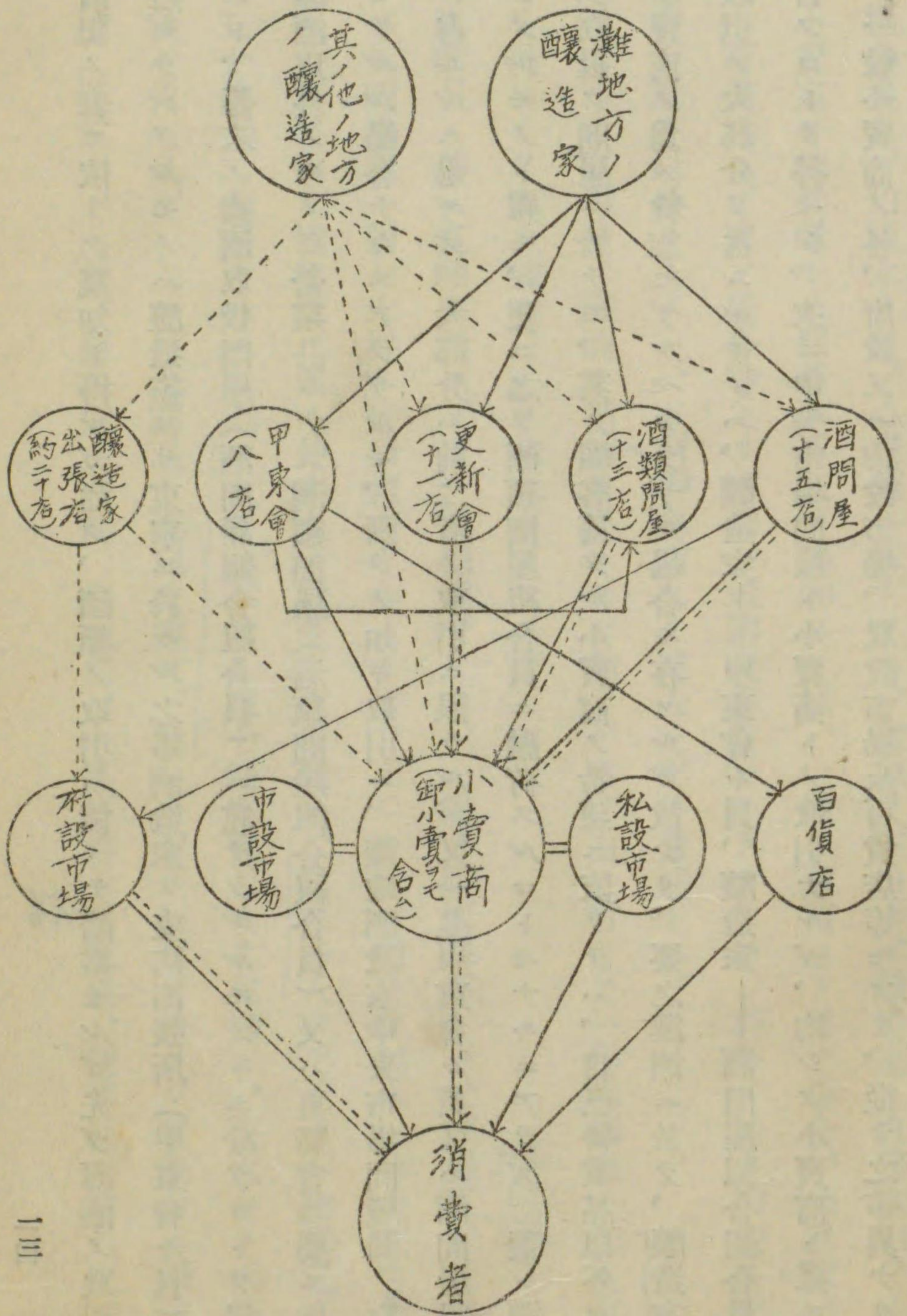
問屋營業者又ハ仲買商ト一般消費者トノ間ニ在リテ、配給機能ヲ行フモノニ小賣業者アリ。酒類小賣業者ハ、通常酒類ノミノ取扱ヲナスコト少ク、味噌、醬油、薪炭等厨房用品ヲモ同時ニ販賣ヲナシ、販賣品目ガ日常生活ト密接ナル關係ヲ有シ、且營業資本トシテ特ニ多大ノ額ヲ要セザルガ故ニ、新規營業ヲ開始スルニ容易ナル關係アルガ爲メ、一般小賣業者ニ比シ、特ニ開業者漸増スル傾向アリ。之ガ爲同業者間ニ劇甚ナル競争ヲ惹起スルコトアルト共ニ、而モ最近公私設市場、百貨店消費組合等ノ發達ノ脅威ヲ受クル等、營業ハ中々困難ナル状態ニアリ。現在東京ニ於テハ、之等小賣業者及外ニ仲買卸業者ヲ以テ、東京酒類商同業組合ナル團體ヲ設ケ、現ニ七、五〇〇名ノ組合員ヲ擁シ居レルガ右組合ハ問屋組合ニ比スレバ遙ニ其ノ事業見ルベキモノアリ。例ヘバ常時巡視員ヲ置キテ不良酒ノ検査、



優良酒ノ審査品評、メートル法ノ實行、組合報ノ發行等ヲ行ヒ、組合員ノ共同ノ利益ヲ増進シ、又一方共同ノ弊害ヲ除去スルコトニ努メ居レリ。

### 第三章 取引系統

清酒ガ醸造家ヨリ消費者ノ手ニ移ル迄ノ徑路ハ、問屋並ニ小賣商ノ種類ガ複雑ナル爲甚ダ多岐ナルヲ以テ、先ヅ一見々易カラシムル爲メ、之ヲ圖示スルニ左ノ如シ。



註 黒線ハ灘酒ノ取引系統  
 點線ハ灘以外ノ取引系統



前記ノ表ニ依リテ窺知シ得ルガ如ク、酒類ノ取引ハ極メテ醋雜セルガ先ヅ灘酒ノ取引ヲ大別スレバ釀造セラレタルモノハ釀造家ヨリ東京ニ於ケル之等酒造家ノ支店出張所（甲東會々員）ニ宛テラルルモノト、舊來ノ灘酒取扱問屋（酒問屋組合組合員）ニ宛テラルルモノトニ分ツコトヲ得。尤モ主トシテ灘酒以外ノモノヲ營業品トナス酒類問屋（酒類問屋組合組合員）又ハ更新會ニ屬スル問屋ニ直採送荷セララルル場合ナキニアラザルモ、斯クノ如キ取引ハ、産地酒造家中央市場問屋間ノ取引高ノ一少部分ヲ占ムルニ過ギズ。大部分ハ前二者ノ取引ニ限ラル。又一旦甲東會々員又ハ酒問屋組合員ニ於テ荷受シタルモノト雖モ、更ニ之ヲ酒類問屋組合員ニ融荷スルコトモナキニアラズ。蓋シ灘酒以外ヲ主トシテ取扱フ問屋ニ於テモ、其ノ顧客筋タル小賣商ノ希望ニ依リテハ、自己營業品以外タル灘酒ノ送荷モ小賣商ノ爲メ斡旋セザルベカラザル場合モ存スルガ故ナリ。要之灘酒ニ於テ、釀造家中央市場問屋ノ取引ノ大部分ヲ占ムルモノハ、釀造家——甲東會々員、釀造家——酒問屋組合組合員ノ二取引ナリト言フコトヲ得ベシ。次ニ中央市場問屋ト小賣商トノ取引ナルガ、均シク小賣商ト雖モ、市内ニ散在スル一般小賣商ノ外、府設又ハ市設市場、私設市場及百貨店等モアリ、從テ之等異ナリタル種々ノ小賣機關ニ依リテ、問屋——小賣ノ取引系統モ亦自ラ異ナル。而シテ、此ノ間ノ取引ノ大部分ヲ占ムルハ勿論一般小賣商ニシテ、普通小賣商ハ甲東會々員、酒問屋組合組合員タル問屋ニ付買入レ、又便宜上酒類問屋組合組合員、又ハ更新會々員タル問屋ヨリ買入ルル場合モアリ。市設市場及私設市場内酒

店ハ、前者ハ市中小賣商ヨリ指定セラレ、後者ハ之等市中小賣商ガ任意市場内ニ店舗ヲ設クルモノナルモノニシテ、實質ハ一般小賣商ト異ナラザルヲ以テ問屋トノ取引ニ於テハ一般小賣商ト異ナルコトナシ。府設市場内酒店及百貨店ニ於テ取扱フ灘酒ハ、主トシテ壘詰物ニ限ラレ、甲東會々員ヨリ仕入ルル場合多シ。尙以上ノ外、小賣商ニ依リテハ、問屋ヲ經由セズ釀造家ト直接取引ヲナスコト往々アリ。小賣商ト消費者トノ關係ハ吾人ノ熟知スル通、一般小賣商ヨリ買フ場合、公私設市場ヨリ買フ場合或ハ百貨店ヨリ買フ場合等アリ。尙一般消費者ニハアラザルモ、料亭ニ於テ消費スルモノハ少數ノ大料亭ヲ除ク以外ノモノハ、市中小賣商ヨリ買入ルルヲ普通トス。

灘酒以外ノ取引ハ、灘酒ト稍趣ヲ異ニセル點アルモ、右ニ付キテハ前掲圖表ニ依リ其ノ大體ヲ知ルコトヲ得ベキヲ以テ茲ニハ之ヲ省クコトトス。

右諸取引ノ外ニ産地取引アリ。ソノ桶賣者トテ、一定ノ販賣地盤ナク、直採販賣者即中央市場へ賣出スベキ酒造家ニ對シ大桶ノ儘販賣スルモノナリ。而シテソノ間ノ取引ニハ仲次人ヲ介シ兩者ノ間ニ介在シテ賣買値ヲ協定ス。其ノ仲次人ノ收受スル口錢ハ、其ノ一人ナルトキハ地場（灘）口錢清酒一石ニ付五十錢、二人若クハ三人ナルトキハ石當リ三十錢宛買主ヨリ支拂ヒ、賣主ヨリ大桶一本ニ付仲次人ノ數ニ拘ハラズ一人ニ付二圓五十錢宛支拂フ。然シナガラ東京ニ於ケル甲東會ニ相當スル大阪ノ丙辰會員（櫻正宗、山星、菊正宗、白鶴、稻正宗、大黒正宗、泉正宗、世界長、富久娘、忠勇、澤ノ鶴

系草  
才  
才  
小松



等ノ銘酒家十一人ヲ以テ組織スル會)ハ買酒多キヲ以テ、容量ノ如何ニ係ハラズ、一桶一本(普通三十石)ニ付十圓宛、灘以外ノ隔地方ノモノヲ仲次スル場合ニハ、石當リ八十錢ヲ受クト言フ。

## 第四章 取引方法

### 一、各取引者間ノ注文方法

中央市場問屋ヨリ酒造家ニ對スル注文ハ電報電話又ハ書面ヲ以テナシ、酒造家注文ヲ接受シタルトキハ普通一週間内ニ送荷ス。仕切方法ハ酒造家ヨリ豫メ賣出値段ヲ指定シ、問屋ヲシテ其ノ指定値段ヲ以テ小賣業者ニ販賣セシメ、問屋ニ對シテ一定ノ口錢ヲ支拂フ場合ト、酒造家ガ大體ノ成行値段ヲ以テ問屋ニ販賣スル場合トノ二様アリテ主トシテ兩者ノ取極如何ニ依ルモ概シテ前者ノ方法ニ依ルモノハ酒類問屋組合員トノ取引ニ多ク、後者ノ方法ニ依ルモノハ酒問屋組合員トノ取引ニ多シ。而シテ、假令後者ノ如キ成行値段ノ場合ト雖モ、大體ノ標準値ハ問屋ニ依リテ墨守セラルルモノニシテ、例ヘバ同等品ノ他銘酒ニ比シ著シク値ヲ崩シ問屋ガ賣出スコトハ酒造家ノ喜バザルトコロニシテ、斯カル場合ニ於テハ、俗ニ出精金ト稱シ、問屋ヨリ或ル意味ニ於ケル賠償金ヲ徴スル場合アリ。蓋シ當該酒ノ品位ヲ保持シ又問屋ガ其ノ賣出値段ヲ僞稱スルコトヲ、斯カル手段ニ依リ、防止セントスルニ外ナラズ。而シテ釀造家——中央市場問屋ノ取引關係ハ大體ニ於テ一定シ居レルモノナルモ、同一酒造家ノ製品ニテモ商標ヲ異ニスルニ從ヒ、取扱問屋ヲ異ニスル場合存スルガ故ニ、必ズシモ甲酒造家ノ製品ハ乙問屋ノミト取引ヲナスモノトハ言フコトヲ得ズシテ、或ル場合ニ於テハ丙問屋ト或



ハ丁問屋トモ取引關係ヲ結ブコトアリ。問屋ト小賣商トノ注文方法ハ、問屋ガ小賣商ニ對スル賣掛金集金ノ際注文ヲ受クル場合ト小賣商ガ問屋ニ至リ唎酒ノ上注文ヲナス場合トアリ。小賣業者ト消費者トノ關係ハ、市場及百貨店ニ於テ消費者ガ自身現金買ヲナス外ハ、吾人ノ日常經驗スル如ク通常御用聽ノ制度ナリ。

## 二、受渡方法及時期

中央市場問屋ガ酒造家ニ送荷ヲ乞ヒタル場合ハ酒造家ハ普通一週内ニ送荷ス。尤モ右ハ普通ノ注文ニ應ズル場合ナルモ、酒造家ノ手持品豊富ナル場合ニ於テハ、問屋側ノ注文ヲ俟タズ問屋ニ對シ送荷ヲナシ、其ノ販賣ヲ依頼スル場合モアリ。又反對ニ問屋側ニ於テ、需要見込數量ニ基キ注文ヲナシ、自己倉庫ニ藏置シ置ク場合等アリテ、酒造家ヨリ離ルル貨物ハ、必ズシモ實需ニ基クモノトノミ見ルコトヲ得ザル場合モ存ス。

受渡方法ハ成行値段取引、即酒問屋組合組合員トノ取引ニ於テハ、問屋ノ庭先渡ヲ以テナシ、指値取引即酒類問屋組合組合員トノ取引ニ於テハ、汐留驛渡ヲ以テナスコト普通ナリ。

問屋小賣商間ノ受渡ハ、問屋ガ小賣商ヨリ注文ヲ受ケタルトキハ大體ニ於テ小賣商ノ希望スル時期ニ配達ヲナシ、小賣商消費者ハ、朝間所謂御用聽ニ依リ注文ヲ取り、午後注文品ノ配達ヲナス。市場百貨店等ニ於テ買フ場合ニ於テハ、現金引換ニテ店頭ニ於テ受渡ヲ完了スルコトハ吾人ノ知ルト

コトナリ。

## 三、取引單位

取引單位ハ釀造家中央市場問屋間ハ十駄（二十挺トモ言フ）即チ通常四斗樽ト呼バルル樽二十個ヲ以テナシ、建値モ亦右ノ數量ヲ標準トナセドモ、實際上ノ取引トシテハ、十駄ノ如キ大量取引ハ比較的少ナク五樽、十樽ノ取引ヲ普通トナス。問屋小賣商間ハ一駄（二樽）ヲ以テナシ、小賣商ヨリ消費者ニ賣ル場合ニハ樹計リ（最近ハ米法）ニテナス。又別ニ壘詰アルモ、之ニハ一升、四合、二合、一合ノ四種アリ。壘詰物ノ取引單位ハ小賣商ト消費者トノ取引以外ハ箱ヲ以テシ、小賣商ト消費者ハ壘ヲ以テス。

## 四、銘柄

灘酒ノ取引ハ一流モノニアリテハ銘柄取引ニシテ其他ニアリテハ普通唎酒ヲナス。銘柄取引ニ依ルモノハ例ヘバ櫻正宗十樽、菊正宗五駄、大關一升壘詰三箱トシテ取引ヲナス。之レニ對シ地廻酒ハ、概シテ買入ニ際シ唎酒ヲナシ、其ノ都度値段ノ談合ヲナシ取引ヲナス。

## 五、價格決定ノ方法

灘酒造家ヨリ東京問屋ニ賣出ス値段ハ、指値トテ小賣業者ニ對スル問屋ノ賣値ヲ示シテ問屋ニ對シ賣出ス場合ト、問屋ヲシテ全然市場ノ成行値段ニ任カス場合トアリ。例ヘバ指値ヲ以テスル場合ハ某酒



十樽、二、〇〇〇圓ト標準値ヲ附シテ賣出ヲナシ、從テ問屋ガ小賣商ニ對スル仕切値ヲ其ノ値ヲ以テナス場合ヲ言フ。此ノ場合ニ於テハ、問屋ハ定メラレタル口錢（現在ノ口錢約七分）ヲ全然入手スル筈ナルガ、事實ハ問屋間ノ競争ニ依リ、斯カル指値ノ場合ト雖モ其ノ値ヲ崩シテ販賣スルヲ以テ、實際ノ問屋口錢ハ之以下ニ下ルコト稀ナラズ。故ニ斯カル方法ニ依ル販賣ニアリテハ、小賣商ノ賣値ハ問屋ヲ介在スルガ爲メニ、酒造家ヨリ直接仕入ルルヨリモ高價ナルガ如キコトナク、却テ問屋自身ノ指値ニ依リ、酒造家ノ賣値ヨリ却テ廉價ニ買入レ得ルコトアリ。又前記セルガ如ク、問屋ニ依リテハ酒造家ト自身トノ取引ニ於テ指値取引ニ依ラズ、全然市場ノ成行指値ニテ小賣商ニ販賣スルモノアリ。之ハ需給ノ關係ニ鑑ミ其ノ値ヲ決定スルモノニシテ、前者ノ指値取引ト稍趣ヲ異ニス。小賣商ヨリ消費者ニ對スル賣値設定ハ問屋ヨリ仕入値ニ或ル程度ノ利益ヲ加算シタルモノヲ以テ、其ノ賣値トナスコトハ當然ナリ。

## 六、代金決済ノ方法

灘方面ニ於ケル酒造家間ノ代金決済ハ大體延取引ニシテ、其ノ期間一定セズ。然レドモ商談成立後三箇月ノ延約手ヲ以テナスコト多ク、收受者ハ銀行ヲ介シテ割引金融ノ便ヲ受ク。尤モ最近ノ不況ノ爲メ、三箇月延ガ半年、一年ノ如キ長期ニ亘ルコト稀ナラズト言フ。

酒造家中央市場問屋間ノ代金決済ハ、内金ト仕切トニ分チ、内金ハ着荷翌々月ヲ以テ、問屋ハ約其ノ八割方ニ相當スル金額ヲ送致シ、其ノ殘額ハ孰レモ翌年五月ヲ以テ仕切期トシ、賣捌價格ヨリ問屋口錢、倉敷料、仲仕賃等ヲ控除シ、決算スルヲ普通トナセドモ、輒近經濟界不況、關東震災等ノ影響ヲ受ケ、内金ハ着荷後三四箇月ヲ以テ六七割方ヲ送附シ來リ、其ノ殘額ハ翌年六七月ヲ以テ仕切期トナシ、極端ナルモノニアリテハ、一箇年ニモ延長スルコトアリ。其ノ決済モ現金ヲ以テナスコト、手形ヲ以テナス場合等區々ニシテ、現在ニ於テハ餘リ統一シタル決済方法ナキ状態ナリ。問屋小賣商間ハ百貨店、消費組合ヲ除キテハ、原則トシテ毎月二十日締切り月末勘定ナレドモ、實際ニ於テ之ガ嚴守セラルルコトハ稀ナリト言フモ可ナラン。小賣商ト一般消費者ハ小賣商ノ種類ニ依リテ異ナリ、市場、百貨店等ハ現金一般小賣商ハ概シテ月末迄ノ掛賣リ勘定ナリ。



第五章 荷造、運輸、貯藏及金融

一、荷造、包装及其ノ費用

(1) 荷造、包装

容器トシテハ樽、壘及陶磁器詰ノ三種アリ。古クハ殆ンド樽ヲ使用シタルモ、最近ニ於テハ、樽代高價ナルト使用者ノ便等關係アリテ、漸次壘詰ニ壓倒セラレツツアリ。今容器別ニ最近ノ狀勢ヲ見ルニ左ノ如シ。

年次	樽詰石數	壘詰石數	陶磁器石數
大正十三年	二七四、一八六石	一三〇、九四六石	七二一石
大正十四年	二七五、二四四	一四四、一〇六	三、〇四六
大正十五年	二六六、六四四	一三四、一八六	九、〇一〇

灘ニ於テハ一度使用シタル樽ヲ再ビ使用スルコトナク、必ズ各詰毎ニ新樽ヲ以テナス。灘以外ノ他地方ト雖モ、勿論新樽ヲ用フルコトアルモ、普通灘酒ノ空樽ヲ其ノ用ニ供ス。樽ノ種類ニハ四斗、二斗、一斗等アリ。尤モ四斗詰ハ最近七五立、二斗ハ三五立ト改メラレツツアリ。今四斗樽ニ付少シク

説明ヲ試ミンニ樽材ノ性質ニ依リ樽ニモ左ノ四種アリ。

1. 甲付樽 外側白色ニシテ内部杉赤色ノモノ、別名内赤トモ言フ
2. しらた 内外部全部白色
3. 順禮樽 内外部共半白
4. 赤身樽 内外共全部杉赤色

而シテ以上ノ樽材ハ、主トシテ大和吉野産ノモノナリ。

斯ク樽詰ニナシタルノハ更ニ極彩色ヲ施シタル商標、又ハ焼印ニ依ル商標ヲ附シタル菰ニ包ミ、大繩(縦繩)細繩(横繩、胴繩、口カガリ、尻カガリ等)ニ依リ包装ヲ完全ニナス。斯様ニ完装セラレタル荷ヲ本荷ト言フ。

壘詰ハ一升、五合、四合、二合、一合、二立、一立等ノ別アリ。壘詰一箱ノ容量ハ一升壘ナレバ十八本乃至二十四本、四合壘ナレバ四十八本、二合壘ナルトキハ九十六本ナリ。

(2) 荷造費用

荷造費用ハ樽ノ種類ニ依リ一定セズ。上酒ハ普通上樽ニ、普通酒ハ普通樽ニ詰メ入ルルヲ以テ、酒ノ優劣ニ依リ荷造費用モ亦自ラ異ナル。今上、中、下三酒ノ荷造包装賃ヲ見ルニ(單位、十駄即二十樽)



(一) 飛切銘酒用

樽代

二八〇・〇〇<sup>円</sup>

菰繩印切賃

二四・〇〇

荷造賃

四・四〇

計

三〇八・四〇

即一樽當

一五・四二

(二) 一等印用

樽代

二五〇・〇〇

菰繩印切賃

二三・三四

荷造賃

四・四〇

計

二七七・七四

即一樽當

一三・八七

(三) 二等印用

樽代

二〇〇・〇〇

菰繩印切賃

二〇・七五

荷造賃

四・四〇

計

二二五・一五

即一樽當

一一・二七

壘詰物ノ荷造包装費用ハ一升壘詰二十四本入ハ箱代、壘代、ツト、綿屑(藁、麥稈屑ヲ俗ニ稱ス)レツテル、工賃等ヲ合セ八圓二十錢ヲ要スト言フ。故ニ一升壘詰一本當リハ約三十四錢ヲ要スル譯ナリ。四合壘ナルトキハ四十八本入ハ箱代、壘代、荷造賃共一切ニテ九圓即一本ニ付十八錢五厘、二合壘九十六本入ハ箱代、荷造賃等ニテ九圓六十錢ナルヲ以テ一本當リハ約十錢ニ當ル。

二、貯藏

(イ) 產地貯藏

醸造家ハ孰レモ仕込藏ヲ有シ、特別ナル貯藏倉庫ヲ有スルコトナシ。

(ロ) 中央市場ニ於ケル貯藏

中央市場問屋ハ、孰レモ自己附屬ノ酒倉ヲ有シ、之ニ保管スルヲ以テ、特ニ營業倉庫ヲ利用スルガ如キコト稀ナリ、從テ倉敷料モ要スルコト少シ。唯委託販賣ニアラザル問屋即、自己ノ危險ニ於テ酒ノ販賣ヲナスモノハ倉敷料ニ該當スベキ費用ヲ小賣業者ニ對スル賣値ニ加算スルヲ正當トナセドモ今日ニ在リテハ財界不況ノ爲メ自店ノ倉庫料ヲ加算スルガ如キハ不可能ナリトス。



42  
14  
168  
142  
258  
(一)

小賣商ノ貯藏

小賣商ハ勿論其ノ取扱數量少ナキヲ以テ、特ニ倉庫ヲ有スルモノ極メテ少數ナリ。

三、金 融

灘方面ノ釀造家ハ、大部分其ノ地方ニ於ケル素封家ニシテ、資金自ラ潤澤ナルヲ以テ、金融ヲ必要トナスコト比較的稀ナリ。然シナガラ金融ヲ受クル場合ノ方法ヲ見ルニ、大體ニ於テ營業資金千石當リ四萬圓程度ノ現金ヲ投下シ、其ノ餘ハ信用ニ依ル當座借越ノ形式ヲトリ、其ノ借越ハ第二期納稅期タル十月ヨリ、漸次加重ノ傾向ヲ辿リ、十一月、十二月ニ於テ最高額ヲ示スヲ例トナス。蓋シ此ノ季節ハ樽代及仕込金等多數ノ資金ヲ要スル爲メニシテ、其後逐次償還セラル。以上ハ大體ニ於テ酒造家ガ素封家タル場合ナルモ、灘ト雖モ必ズシモ素封家タル釀造家ノミニ限ラレタルモノニアラズ。比較的新規開業者ニシテ、確實ナル販路ヲ有セザルモノニアリテハ、財界不況ニ依ル賣懸金ノ回收不圓滑ト金融梗塞ニ基キ、其ノ經營ニハ相當ノ困難ヲ感ジ居ルモノノ如シ。

而シテ酒造家中央市場問屋間ノ代金決済ハ、前述セル通手形又ハ現金ヲ以テ決済セラルルガ故ニ、手形ヲ收受シタル酒造家ガ其ノ手形ノ割引ヲ銀行ニ乞フ場合アルモ、一般ニ割引ヲ利用スルモノハ比較的少ナシ。小賣商ノ問屋ニ對スル支拂ハ、原則トシテ現金拂ナルヲ以テ、手形ヲ以テ行フ金融ノ行ハルルコトナシ。而シテ從來問屋ニ依リテハ、自己顧客タル小賣商ニ對シ、營業資金ノ援助等ヲ與ヘ

タルガ如キ場合アリタルモ、最近斯クノ如キ傾向ハ漸次減少シツツアリ。又清酒ハ營業倉庫ニ入庫セラルルガ如キ場合少ナキヲ以テ、倉庫證券ニ依ル金融ノ行ハルルコトモ亦殆ンド稀ナリト言フモ可ナリ。

四、運 輸

灘酒ノ輸送ハ、產地最寄りノ驛例ヘバ西宮、住吉、東灘ヨリ發送セラルルモ、此ノ方法ニ依リテ送荷セラルルハ、灘全産額ノ約六割ニ及ビ、而モ其ノ中三割三分見當ハ、汐留驛渡ナリ。鐵道便以外ノ四割ハ大量ナル場合ハ、西宮港其他最寄りノ港灣ヨリ舳便ニ依リ、神戸大阪ニ至リ本船ニ積込ムモ少量ナル場合ニハ、荷車「トラック」等ニ依リテ阪神方面ニ送出シ、取扱店ニ託シ本船ニ積込ム。而シテ船便ニ依リテ移出セラルルモノノ中、東京ニ仕向ケラルルモノハ總移出額ノ六割五分ニ上ルヲ以テ、海陸併セテ灘酒ノ東京ニ移出セラルル數量ハ、全體ノ六割ニ達スル譯ナリ。鐵道便ニ依ルモノハ、孰レモ汐留驛渡ニ限ラルルヲ以テ、今假リニ汐留驛トシテ、灘汐留驛間ノ運賃ヲ見ルニ貸切扱一噸（十樽六分ニ該當ス）ニテ左ノ通トナル。

西	宮	—	汐	留	八圓三〇錢
住	吉	—	東	灘	八圓三〇錢

故ニ灘汐留間ノ鐵道運賃ハ、一樽當リ七十五錢擲ヲ要スル次第ナリ。



汐留驛ヨリ問屋マデハ、酒造家又ハ買手タル問屋ト特約關係ニアル運送店ノ手ニ依リ、問屋倉庫マデ送達セラル。其ノ輸送方法ハ汐留驛ニ於テ貨車ヨリ荷車又ハ「トラック」ニ積換ヘ、又ハ船ニ積込ミテ水陸兩方面ヨリ輸送ス。其ノ間ノ運賃ハ荷揚賃共一樽二二錢——二三錢見當ヲ稱ヘ居レリ。現在汐留驛ニ於テ酒類ノ運送ニ從事スルモノハ、主ナルモノトシテ約六店アリ。之等ハ酒造家及中央市場問屋ト其ノ取扱ニ關シ契約ヲ結ビ居レリ。而シテ運送店問屋間ノ運賃勘定ハ、普通月末ニシテ或ハ二三箇月後拂トナルコトモアリ。問屋ト小賣商間ノ運送ハ、荷車「トラック」等ニ依リテ小賣商店鋪迄配達セラレ、運賃ハ小賣商負擔トナルモ、此ノ場合ノ運賃ハ問屋トノ距離ノ長短ニ依リ、固ヨリ一定セザルガ其ノ費用ハ少額ナルヲ以テ茲ニ特記スルノ要ナカルベシ。

### 第六章 清酒價格構成ノ要素

以下清酒ノ小賣値ガ如何ナル要素ヲ以テ構成セラルルカヲ検討セン。(單位一石當リ)

#### 一、樽詰物

##### (1) 生産原價

單ニ生産原價ト言フモ、各酒造家毎ニ多少ノ相違アルハ免レザルトコロナルガ、茲ニハ便宜上大正十五年度酒造年度清酒生産費調(昭和二年六月兵庫縣廳調査)ヲ基礎トシ示スニ

區分	製成石數(石當)	課稅石數	備考
醸造費	七八・七六	八五・〇八	内譯別記ノ通
精米費	一・五五	一・六八	同
計	八〇・三一	八六・七六	
雜收入	三・〇四	三・三〇	内譯別記ノ通
差引一石當原價	七七・二七	八三・四六	

註 課稅石數ハ製成石數ヨリ百分ノ七ヲ控除シタルモノ

貯藏減量ニ相當スルモノニシテ事實ノ販賣石數ト大差ナシ



而シテ右醸造費、精米費、雜收入ノ内譯ヲ見レバ左ノ如シ。

(イ) 醸造費内譯

科 目	製成石數 (二石當支出)	課稅石數 (二石當支出)	備 考	科 目	製成石數 (二石當支出)	課稅石數 (二石當支出)	備 考
地租及附加稅	五	六		燈 火 費	五	六	
營業稅及附加稅	六六	七一		酒 藏 保 險 料	一四	一五	
家 屋 稅	二八	三一		藥 品 代	一五	一六	
酒 造 稅	三七、二〇	四〇、〇〇		口 張 紙 澁 代	七	八	
原 料 米	三〇、四三	三三、〇〇		雜 費	一、二三	一、三四	
酒 藏 修 繕 費	一、三五	一、四七		借 藏 料	一二	一三	
酒 造 容 器 修 繕 費	一、〇三	一、一一		組 合 費	一	一	
藏 人 給 料	三、二八	三、五五		借 入 金 利	一五	一六	
同 食 費	一、〇〇	一、〇八		電 力 料			
酒 造 用 水	四六	五〇		計	七八、七六	八五、〇八	
薪 炭 費	一、一〇	一、一九					

(ロ) 精米費内譯

科 目	製成石數 (二石當)	課稅石數 (二石當)	備 考	科 目	製成石數 (二石當)	課稅石數 (二石當)	備 考
電 力 料	四一	四五		燈 火 費	二	二	
給 料	五五	五九		薪 炭 費	一	一	
食 費	一六	一七		機 械 油	一	一	
器具機械修繕費	一三	一四		雜 費	三	三	
建物修繕費				火 災 保 險 料	一	一	
石 粉				計	一、五五	一、六八	
運 搬 費	二三	二六					

(ハ) 雜收入内譯

科 目	製成石數 (二石當收入)	課稅石數 (二石當收入)	備 考	科 目	製成石數 (二石當收入)	課稅石數 (二石當收入)	備 考
酒 粕	二、〇一	二、一八		土 穂	二	三	
小 米	二九	三一		空 俵	一三	一四	
糠	五九	六四		計	三、〇四	三、三〇	

(ニ) 販 賣 費

酒造家ガ自己製品ヲ販賣スルニ要スル費用ハ大體ニ於テ次ノ要素ヨリ成ル。



科目	金額	備考	科目	金額	備考
事務員給料	三一、六六三、〇〇 <small>錢</small>		雜費	五八、六四七、〇〇 <small>錢</small>	
支店經費	二〇、〇一五、九六		場詰場入費	二二〇、二五五、〇三	
通信費	五四一、〇〇	電話料	酒造組合費	九七五、〇〇	
樽代	二二五、〇六六、〇〇		仲仕賃	一〇、九三五、〇〇	
荷造費	八、九九九、〇〇		金利	六四、二〇三、〇〇	
運費	四五、二七一、〇〇		計	七〇五、三四七、一六	
其他費用	一八、八一六、一七				

而シテ右統計ハ、稍古ク大正十四年度ノモノナルガ同年度販賣總石數ハ一三、九六四石八〇七ナルヲ以テ、一石當販賣費ハ五〇圓五〇八トナル。尤モ右ハ東京ニ付テノミノ販賣高ニアラズ、又樽詰ノミニアラズシテ、今茲ニ調査セントスル東京樽詰ノ價格構成ノ要素トシテ見ルハ、稍々當ラザルガ如キモ大體ニ於ケル趨勢ヲ知ルコトヲ得ベシ。

(3) 保險料倉庫料及汐留驛問屋間小運賃

右ハ中央市場問屋ガ自己倉庫在中ノ商品ニ對スル保險契約ニ基キ、保險會社ニ支拂フ保險料及委託者タル酒造家ニ對スル自己倉庫ノ賃貸料、汐留驛ヨリ問屋マデノ小運送賃等ヲ指シ一見問屋ノ負擔又

ハ收得ニ屬スルモノノ如ク見ユルモ、實ハ之等ハ孰レモ酒造家ニ轉嫁セララルモノニシテ、結局前掲セル酒造家ノ販賣費ニ該當スルモノナルガ、市場及取扱者ガ異ナルヲ以テ、茲ニ特記セル次第ナリ。

而シテ保險料ハ十駄（一駄ハ八斗乃至八斗四升）ヲ標準トシ、一石ハ四八錢ニ當リ又問屋ノ倉庫賃貸料トシテ問屋ノ酒造家ヨリ受クルハ、同ジク十駄ニ付二圓即一石ニ付四八錢ヲ要ス。故ニ一石ニ付保險料及倉敷料トシテ合計九六錢ヲ要スル次第ナリ。其他汐留驛ヨリ問屋間ノ運賃トシテ、一樽二二錢乃至二三錢ヲ要スルヲ以テ一石當リ此ノ間ノ運賃ハ五二錢ニ當ル。

尤モ右諸費用ヲ慣習上問屋負擔トナス場合モ往々アリ。

(4) 酒造家ノ利益

此ノ種ノ利益ハ最モ判定ニ苦シムトコロナリ。其ノ理由ハ同一程度ノ生産原價ノモノナリト雖モ、其ノ賣出値段ハ當該品ノ滋味、宣傳ノ巧拙等ノ影響ニ依リ、實ニ區々ニシテ單ニ一石幾何ト見ルコトヲ得ズ。又事實酒造家ノ問屋ニ對スル仕切値ハ窺知シ難キヲ以テ、茲ニハ推定ニ基キ普通品トシテ東京市場ニ於テ比較的取扱數量多キ灘西ノ某宮酒造會社ノ銘酒ヲ例ニトランニ、右銘酒ヲ酒造家ガ中央市場ニ對シ販賣スル仕切値ハ十駄一、二〇〇圓見當ナルガ如シ。即一石當リハ、一五〇圓掬ナリ。故ニ酒造家ノ收ムル實際利益ハ其ノ中ヨリ前述セル生産原價、販賣費、保險料、倉敷料、小運送賃、之



ニ問屋ニ對スル口錢約七分等ヲ控除シタルモノト見ルコトヲ得。今其ノ計算ヲ以テ酒造家ノ一石當利益ヲ見ルニ

酒造家ノ販賣値段一石當リ

一五〇圓

之ヨリ控除スベキモノハ

生産原價

七七・二七

販賣費

五〇・五〇

倉敷料

四八

保險料

四八

汐留驛ヨリ問屋マデノ小運送賃

五二

問屋口錢

一〇・五〇

小計

一三九・七五

差引酒造家利益

一〇・二五

即チ之ニ依レバ、酒造家ノ利益ハ約七分トナル。尤モ右ノ利益歩合ハ、販賣費、生産費特ニ酒造會社ニ付調査シタルモノニアラズ。灘酒ノ平均ヲ基礎トナシタルモノナルヲ以テ、必ズシモ此ノ程度ナリト斷定スルコトヲ得ザルモ、大體ニ於ケル係數ト見テ大差ナカルベキカ。

(5) 中央市場問屋ノ利益

中央市場問屋ハ指値ニ依ルト否トニ係ハラズ、大體ニ於テ賣上額ニ對シ、七分ノ口錢ニ當ルモノノ如キヲ以テ、假リニ前記銘酒ニ付テ言ヘバ、酒造家ノ問屋賣値ハ一石當一五〇圓ナルヲ以テ、其ノ七分ハ約一〇圓五〇トナル譯ナリ。然シナガラ實際ニ於テ、問屋ハ酒造家ヨリノ指値又ハ其ノ近キ値ヲ以テ販賣ナスコト稀ニシテ、之ヲ崩シ販賣スルコト往々存スルヲ以テ、實際收受スル口錢ハ之ヨリ以下トナリ、從テ其ノ口錢歩合モ六分又ハ之以下トナルコト多キ模様ナリ。

(6) 小賣商ノ利益

小賣商ノ利益算定ハ稍複雑ナルヲ以テ、以下稍詳細ニ檢討センニ、通常一樽ハ四斗樽ト稱スルモ、季節關係ニ依リテ其ノ容量ヲ異ニシ、本場物ニアリテハ五月ヨリ九月迄ニ酒造家ガ賣出スモノ、之ヲ専門語ヲ以テ言ヘバ樽圍ハ一樽ノ容量平均三斗四升、其ノ他ノ期間ニ賣出スモノハ四斗一升ヲ普通トナスヲ以テ平均一樽ノ容量ハ三斗八升見當トナル。然ルニ小賣商ガ消費者ニ販賣スル場合ニハ、一定料ノ注文ニ對シ正確ニ量ルコトハ實際上稀ニシテ、一割五分乃至二割ノ量込ヲナスヲ以テ、一樽三斗八升ヲ三斗八升トシテ賣上グルコトハ不可能ニシテ、前記ノ量込ミヲ考慮スルトキハ、先ヅ一樽ハ三斗ノ賣上ト見ラルベシ。而シテ前記ノ銘柄ヲトランニ、小賣商ガ問屋ヨリ仕入ルル値段ハ十駄一、二〇〇圓(問屋ハ曩ニモ述べタル通多ク委託販賣ニシテ、酒造家ヨリノ指定値段ヲ以テ其ノ儘小賣商ニ



賣渡ス立前ナルヲ以テ、小賣商ノ問屋ヨリノ仕入値ハ、大體ニ於テ酒造家ノ問屋ニ對スル仕切値ト相等シト見ルコトヲ得ベキナリ。ナルヲ以テ一樽ハ六〇圓ナリ。即一升當リ仕入値ハ、前述セル如ク一樽ノ容量三斗ト見テ約二圓トナル。而シテ普通之ヲ消費者ニ小賣スル場合ニハ二圓三〇乃至二圓三五ニシテ一升當リ利益ハ三〇錢乃至三五錢ナルヲ以テ、小賣商ノ利益ハ一割八分ナリ。然レドモ此ノ外ニ空樽賣却代トシテ、一樽二圓——四圓ノ收入アルヲ以テ假リニ三圓トスルトキハ利益率ハ二割三四分トナルモ、銘酒ニ依リテハ量リ込及樽代ニモ相等相異アルヲ以テ、小賣商ノ利益ハ平均シテ二割見當ト見テ大差ナカルベシ。

以上ニ依リテ、清酒小賣價格ノ大様ヲ述ベタルヲ以テ、左ニ東京ニ於ケル石當リ小賣價格構成ノ要素ヲ示サンニ、左ノ如クナル。

生産原價	七七・二七
販賣費	五〇・五〇
中央市場問屋藏置品ニ對スル保險料	・四八
同倉敷料	・四八
汐留驛ヨリ問屋マデノ運賃	・五二
酒造家ノ利益	一〇・二五

中央市場問屋ノ利益	一〇・五〇
卸賣値段	一五〇・〇〇
小賣商量込、及樽詰込後ノ自然減量	四五・〇〇
小賣商利益	三五・〇〇
小賣値段（一石當）	二三〇・〇〇

二、壘詰物

嘗テハ酒類ハ殆ンド樽詰ニ限ラレタルモノナルガ、最近ニ於テハ容器ガ次第ニ改善セラレ、取扱上ノ便宜其他ノ關係上壘詰物ノ需要漸次擡頭ナシツアリ。其ノ容器別生産割合ニ付テハ、曩ニ荷造ノ節ニ於テ述ベタル通り樽詰物ノ半分ニ該當スル實情ナルヲ以テ、壘詰物モ酒類取引上相當重要視セザルベカラズ。今市場ニ於テ販賣セラルル普通壘詰物ノ價格構成ノ要素ヲ検討センニ、先ヅ茲ニ注意ヲ要スルハ灘方面酒造家ノ賣出ニ係ルモノト雖モ、壘詰物ハ其ノ樽詰物ニ比シ其ノ價格極メテ廉價ナルコトナリ。蓋シ其ノ理由ハ灘酒釀造家ノ自己釀造數量ハ自ラ一定シ居リテ、自己釀造額ノミヲ以テシテハ、到底其ノ需要ヲ充シ難キ實情ニ在リテ、其ノ不足額ハ縣内又ハ縣外ヨリ勢ヒ購ハザルベカラズ。而シテ之等移入酒ハ、多ク壘詰物トセラレ、自己商標ヲ貼付シテ賣出サルモノナルヲ以テ、其ノ實質ハ自己釀造品ト概ネ其質ヲ異ニスレバナリ。而シテ之等移入酒ノ灘酒造家ノ買入値段ハ一升約



八五錢、之ニ壘代及詰入工賃併セテ二〇錢、包裝代五錢、運賃五錢、計一圓一五トナル。之ヲ中央市場問屋ガ小賣商ニ販賣スル値段ハ一圓七六見當ナリ。而シテ、此間釀造家ガ中央市場ニ仕切ル値段ガ幾何ナリヤハ詳カナラザルモ、要スルニ右ノ差額六一錢ヲ酒造家ト中央市場問屋トガ利得スル譯ナリ。而シテ之ヲ小賣商ガ消費者ニ賣ル値段ハ一圓八〇乃至二圓ナルガ二圓ニテ賣ルコトハ極メテ稀ナル模様ナリ。故ニ小賣商ノ一升壘詰一本當利益ハ最モ薄利ノモノニテ四錢、最モ利益多キモノニテ二四錢見當ニシテ外ニ空箱一箱ニ付四〇錢即一本當二錢ノ利益アルヲ以テ、之ヲ合スルトキハ小賣商ノ利益ハ六錢乃至二六錢ナリ。而シテ右ハ一般小賣商ノ賣値ナルモ、公設市場ノ賣値ハ一圓八〇、私設市場ハ場合ニ依リテハ原價其ノ儘、又ハ其レ以下ニテ囤販賣策トシテ販賣スルモノアル實情ナリ。

## 第七章 酒類取引ノ現在ニ於ケル實情

現在經濟界ニ於テ同業者間ノ競争ハ、孰レノ業タルヲ問ハズ熾烈ヲ極ムルハ勿論ナルモ、其ノ中ニ在リテモ酒類ノ販賣競争ノ如ク甚ダシキモノハ稀ナルベシ。釀造家ハ同業者間ノ競争ヲ或ル程度輕減スル意味ニ於テ、時々酒類ノ需給狀況ヲ考慮シ、其ノ造石高ヲ制限又ハ擴張ナスモ、斯カル作用ヲ以テシテハ、到底競争防止ノ目的ヲ達成スルコトヲ得ズ。孰レ後章ニ於テ詳述スベキモ、或ハ多大ノ景品ヲ附シ、或ハ觀劇會ニ招待シ、又ハ旅行ニ勤誘スル等、凡ユル方法ヲ以テ自己釀造品ノ販賣ニ腐心シ問屋ニ對シテモ或ハ賣上歩合ノ増加ノ如キ、或ハ金融上ノ利便ノ如キ、好餌ヲ與ヘテ其ノ自家生産品ノ取扱ヲ獎勵ナシツツアリ。而シテ此ノ方面ニ消費セラルル金額ハ、實ニ少ナカラザル額ニ達シ、之ガ生産原價ノ低落ヲ阻止スル有力ナル原因ノ一ヲナシ居ル状態ナリ。然シナガラ、斯クノ如ク販賣方面ニ於テハ少ナカラズ注意ヲ怠ラザル酒造家モ比較的生産方面ニ於ケル改善ニハ、注意ヲ缺クコト多キ模様ナリ。尤モ酒造組合等ニ於テ品質ノ向上腐敗ノ防止等ニ關シ調査研究ヲ怠ラザルモ、生産費ノ低減ノ如キハ割合ニ閑却セラレ、遲々トシテ進マザルガ如シ。唯往時ニ於ケルガ如ク不良品ハ漸次影ヲ止メザルニ至レルハ喜ブベキ現象ナリ。酒造家ヨリ中央市場問屋ニ至ル間ニ於テハ、東京市場ニ付テハ此間ニ酒問屋其他ヲ介スルモ、最近ハ生産者ヨリ直接小賣業者ヘノ階梯ヲ辿ルモノ多ク、即前述



セル甲東會ニ屬スルモノハ之ニシテ、有力醸造家ガ東京市場ニ支店出張所ヲ設クル傾向ハ漸次濃厚ナリ。之ガ爲メ問屋ノ領域ハ次第ニ縮少セラレツツアリ。現ニ從來ハ此ノ種問屋ノ勢力ハ偉大ナルモノニシテ、小賣商ニ對スル金融ノ外、醸造家ニ對シ仕込資金ノ提供ヲナスモノスラアリシ状態ニシテ、且販賣上ノ權能ハ凡テ之等問屋ガ把持シ、却テ或ル場合ニ於テハ酒造家ヲ牽制シタルコトモアル實情ナリシガ、現在ニ於テハ勢力殆ンド逆轉シ、却テ酒造家ノ統制ニ服ス場合多キニ至レル有様ナリ。蓋シ此種中間商人衰退ノ理由ハ、多々存スベシト雖モ、小賣商、酒造家ノ自覺、通信交通機關ノ整備、一般販賣界ニ於ケル趨向等ニ依ルトコロ大ナルモノト認メラル。問屋ノ競争モ亦前者酒造家ニ劣ラズ劇烈ナルモノアリ。指値ニ依リテ販賣ヲ委託セラレタルモノノ如キ、小賣商ニ仕切ル場合値引ヲナスモノノ普通ナリ。之同業者間ノ競争ニ堪エンガ爲メニ外ナラズ。之ガ爲メ、酒造家ヨリ受クル手数料七分ヲ全然自己ガ收得スルコトハ甚ダ稀ニシテ、六分、五分ヨリ更ニ下リテ四分ノ程度ニ止マルコトアル状態ナリ。又指値ニ依ラザルモノノ中ニ於テモ標準トナルベキ價格ヲ遙ニ下廻ルガ如キ値段段ヲ以テ賣叩クモノアリ。斯カル場合ニハ、酒造家ハ當該品ノ品位保持ノ爲メ出精金トテ或ル意味ノ懲罰金ヲ科スルコトアリ。此ノ事例ヲ以テスルモ、問屋間ノ販賣競争ノ如何ニ甚ダシキカヲ窺知スルコトヲ得ベシ。其ノ結果ハ、小賣商ノ信用状態ヲモ顧慮スルコトナク、信用ヲ以テ容易ニ荷ヲ卸シ其ノ結果貸倒ノ憂キ目ヲ見ルコト稀ナラザルガ如シ。

小賣商ノ販賣事情ニハ、更ニ深酷ナルモノアリ。其ノ原因ヲ索ヌレバ枚舉ニ遑アラザルモ、先ヅ最も主要ナルモノヲ掲グレバ、(一)大震災ニ依ル打撃、(二)一般不景氣ニ依ル打撃、(三)同業者過多ニ依ル打撃、(四)百貨店公私設市場ノ如キ新施設ノ増加ニ依ル打撃、(五)區劃整理ノ結果ニ基ク購買者數減少ニ基ク打撃等ヲ舉グルコトヲ得ベシ。而シテ右數多ノ打撃ハ、特ニ酒類業者ニノミ限ラレタルモノニアラズ、一般商工業者特ニ中小商工業者ノ等シク受クルトコロナルモ、酒類ガ一般日用品タルト、公私設市場ニ於テ主要品目タルノ關係上、他業ニ比シ特ニ甚ダシキ模様ナリ。然ラバ、右ノ打撃ニ依リ、營業者ノ營業策ニ如何ナル變革ヲ生ジタリヤト言フニ、同業者間ニ極端ナル販賣競争ヲ醸成セルコトナリ。右ハ(一)大震災ニ依リ資産ヲ失ヒ其ノ結果ハ金融逼迫トナリ、勢ヒ商品ヲ現金化セントスル氣分濃厚ナル爲メ、(二)不景氣ニ基ク購買力ノ減退ニ備ヘンガ爲メ、(三)同業者過多ヨリ來ル販賣競争ニ對抗セン爲メ、(四)百貨店、公私設市場ノ如キ新ナル競争者ノ賣値ニ對抗セン爲メ、(五)區劃整理ノ結果購買者ノ數減少シタルコトニ基ク購買力減退ニ備ヘンガ爲メ等ニ外ナラザルベシ。而シテ之ガ爲メ、如何ナル競争方法ガ實際行ハルルヤト言フニ、或ハ割引販賣ヲナスモノ、景品付販賣ヲナスモノ、或ハ囂商策トテ消費者一般ニ熟知セラルル著名特定銘柄品ヲ原價若クハ僅少ノ利益若クハ原價以下ニテ販賣ナシ他ノ營業品ニテ利益ヲ得ントスルモノ等ヲ生ズ。之等自由競争ハ他商品ノ販賣ニ付テモ見ラルルトコロニシテ、其ノ程度ヲ超エザル範圍内ニ於テ行ハルル場合ニハ非難シ難キ販賣策ニシテ、同時ニ消費



者モ之ニ依リテ利益ヲ受クル次第ナルモ、其ノ程度ヲ超ユルトキハ弊害決シテ少ナカラズ。事實小賣業者ノ競争實情ハ其ノ埒外ニ迄及ビ其ノ甚ダシキ例証ヲ引用セバ、酒一升ニ米一升ノ如キ不當ナル景品ヲ添付シ、大關、月桂冠ノ如キ有名品ヲ遙ニ原價ヲ切リテ販賣スル等ノ場合アリ。其ノ結果ハ營業者相互ニ疲弊シ、自繩自縛ニ苦シムノミナラズ、遂ニ廉賣ノ爲メニハ其ノ手段ヲ擇バザルニ至リ、不正酒ノ販賣例ヘバ、銘酒ノ代リニ裾物ヲ賣リ、又ハ混酒シ販賣スルモノ、又ハ清酒以外、例ヘバ醬酒ノ如キニ於テ不正販賣ヲ行フモノヲ往々見ルニ至レル状態ナリ。サレバ之ガ弊害ヲ矯正スル爲メニハ、曩ニ同業組合ノ事業ニ於テ述べタル通、組合ニ於テ試買ヲ行ヒ不正アリト認メタルトキハ、警告其他ノ方法ニ依リ懲罰ヲ加ヘツツアリ。今參考ノ爲メ、酒類小賣業者ノ中小ニ該當スルモノノ標準タルモノノ收支ヲ示サンニ先ヅ資本金二千五百圓内外ヲ以テ開業セル程度ノ酒店ノ定着顧客數ハ、五六十軒ニシテ其ノ賣上高ハ一箇月千圓見當ナリト言フ。賣上高千圓トシテ、此ノ程度ノ酒店ノ收益ヲ算出スルニ、其ノ各營業品ノ利益歩合ハ「ビール」一割以下、清酒壘詰五分、樽詰量賣二割、醬油有名品樽詰壘詰共七分見當ナルヲ以テ、之等ノ平均ヲトルトキハ約一割トナルモ、其ノ中利益歩合最モ大ナル酒類ノ賣上高ハ全體ノ主要部分ヲ占メ、又清酒ニセヨ、醬油ニセヨ、其ノ中ニハ利益率良キ二流以下ノモノモ存スル筈ナルヲ以テ、假リニ平均一割五分ト見レバ千圓ニ對スル收益ハ百五十圓トナル譯ナリ。之ニ對シ支出ハ家賃二十圓内外、店員一名食費給料共三十圓ノ割ニテ二名分六十圓公課組合費共五圓トシ

テ計八十五圓ヲ要スルヲ以テ殘額六十五圓ヲ以テ生活費トナス譯ナリ。斯クノ如キ事情ナルヲ以テ中以下ノ小賣商ノ生活ハ、相當困難ナルモノト見テ差支ナカルベシ。

其ノ結果ハ問屋ニ對スル買掛金ノ支拂モ兎モスレバ遲延勝トナリ、從テ唯デサヘ餘裕ナキヲ啣ツ問屋ニ苦痛ヲ與ヘ、其ノ苦痛ハ延テ酒造家ニ累ヲ及ボス如ク、取引全體ヲ通ジテ動モスレバ圓滑ヲ缺カシムルニ至ルナリ。



## 第八章 酒類取引ニ於ケル缺陷及之ガ改善ニ關スル意見

前章ニ述ベタル弊害ニ基キ缺陷ガ生ズル譯ナルヲ以テ從テ之ヲ匡正セントスルコトガ即改善ナルヲ以テ右改善意見ハ前章ニ依リ大體推知シ得ルトコロナルベキガ、稍々詳細ニ述ブレバ左ノ如キモノアリ。

## 一、酒造家ニ關スル缺陷及改善意見

酒ハ曩ニ前章ニ於テ述ベタルガ如ク、實ニ販賣戰劇烈ヲ極ム。其ノ理由ハ酒ハ本邦内殆ンド到ル處ニ於テ釀造セラレ、且其ノ性質上長期間保藏シ得ザル事情アルヲ以テ、酒造家ハ勢ヒ其ノ製品ヲ賣急グ傾向アリ。從テ造石高ノ制限ノミヲ以テシテハ、到底此ノ勢ヲ阻止スルコトヲ得ズ。當然販賣競争ノ態トナツテ現ハレ販賣戰ニ費消セラルル額ノ實ニ莫大ナルニ喫驚セザルヲ得ズ。而シテ輒近ニ於ケルガ如ク、經濟界不況ノ際ハ獨リ酒類取引ニ限ラズ、各商品共販賣宣傳ノ劇甚ナルコトハ論ヲ俟タズト雖モ、恐ラク酒類販賣ニ關スル宣傳ニ優ルモノハ少ナカラザルベシ。例ヘバ現在行ハルル宣傳方法トシテハ陳腐ナル新聞誇大廣告ヲ始メトシテ、景品付販賣、觀劇招待券附販賣、旅行招待附販賣等殆ンド枚舉ニ違アラズ。其ノ執レヲトルモ多額ノ費用ヲ要スルモノノミニシテ、此ノ方面ニ費消セラルル金額ハ、清酒、醬油、麥酒、味淋、燒酎ノ如キ酒店關係ノ商品ノ分ヲ合スレバ、年約三千萬圓ニ達スト稱

セラルルヲ以テスルモ如何ニ多額ノ冗費ヲ之ニ充ツルカ想像ニ難カラザルベシ。而シテ斯クノ如キ莫大ナル浪費ヲナスコトハ、生産家自身自縛自縛ニ陥ルモノナルベク、即之ニ依リテ生産原價ヲ高メ、其ノ消費ヲ抑制セラルルガ如キ結果ヲ招致スルコトハ明カナリ。事實最近一般物價ガ低落歩調ニアルニモ係ハラズ、本品ノ不落ガ遲々トシテ進マザルハ右ノ如キ冗費ノ多キコト亦一面ノ理由タラズンバアラズ。然レドモ、右ノ如キ販賣宣傳ノ盛ニ流行スル所以ヲ單ニ釀造家ニノミ嫁スルハ當ラズ。問屋、卸小賣商モ其ノ罪ノ一班ヲ負ハザルベカラズ。即之等當業者ガ前記ノ如キ景品附商品ヲ歡迎スルコトモ、與テ之ヲ助長スルモノト言フベキナリ。以上ハ釀造家ニ伴フ缺陷ノ一ナリ、其ノ二ハ釀造家ハ概シテ、地方素封家ノ行フ企業ナルガ爲メ、一般ニ保守的ノ風アルコトナリ。其ノ結果ハ各種産業ガ産業上ノ近代的設備及方法ヲ採擇シ、生産ニ販賣ニ改善ヲ計リツツアルニ比スレバ、本業ハ比較的其ノ改良進歩ノ點ニ於テ、遲々タルノ憾アリ。從テ生産費ノ低減ニ付テモ他商品ニ比シ遜色アルヲ看過スルコトヲ得ズ。故ニ釀造家ハ此ノ方面ニモ留意シ、銳意生産原價ノ低減ヲ計ルト共ニ、前述ノ如キ宣傳ニ要スル浪費ノ節約ヲ計ルベキナリ。之ガ爲メニハ、同業者間ヲ何等カノ施設ニ依リテ統制シ、相互ニ誇大宣傳ヲ相戒メ、共同廣告ノ如キ方法ヲ採ルモ一方法ナランカ。酒造家ヲ中心トナス取引ニ於テ尙一ツノ缺陷アリ。ソハ決濟關係若クハ金融方面ニ於テナリ。

前述セルガ如ク、酒造家ガ中央市場問屋ニ對スル賣掛金回收ハ甚ダ緩漫ニシテ、甚ダシキハ年一回



ノ回收ノ如キアリ。斯クノ如キ不統制ニアリテハ、自ラ其ノ賣出値ニ長期間ノ日歩金利等ヲモ見込マザルベカラズ。且右ノ不統制ニ基ク貸倒等モ自ラ増加スル譯ナルヲ以テ之ヲ整備シ、長期取引ハ成ルベク之ヲ避クルノ策ヲ講ゼザルベカラズ。

又直接取引上ノ缺陷ニハアラザルモ、包裝費ニ少ナカラザル費用ヲ要スル缺點アリ。前ニモ述ベタル通、飛切銘酒用樽ニハ一樽樽代共一五圓四二、一等品ニテ一三圓八七、二等品ニテモ一一圓二七ヲ要シ小賣價格構成ノ上ニ於テ實ニ一割四分以上ヲ占ム。商品ノ體裁味覺トノ關係等モアレバ、之ガ輕減ヲ期シ難キ事情モアルベケレドモ、研究ノ結果ニ依リテハ之ヨリ低下セシムル餘地必ズシモナカルベシト思ハレズ。故ニ此ノ方面ニ於ケル改善モ亦望マシキ問題タリ。尙容器荷造ノ如キモ、各商品トモ單一化ノ傾向アル際ナルニ於テハ、此ノ方面ノ研究モ相當必要ナル事項ニ屬ス。此ノ意味ニ於テ最近壘詰酒ガ流行シ來レルハ賛成スベキ現象ナリ。

## 二、問屋ニ關スル缺陷及改善意見

最近酒類問屋ハ酒類取引上ノ機能昔日ノ如クナラザルガ如シ。蓋シ、醸造家ニシテ中央市場ニ直接其ノ出張店ヲ設クルモノ多キ其ノ理由ノ主タルモノナラン。從テ前章ニ於テ述ベタルガ如ク、同業者ノ販賣競争ノ結果ハ、顧客タル小賣商ヲ吸收スルニ急ナル爲メ、濫リニ掛賣ヲナシ貸倒ニ遭フ例少ナカラザルガ如ク、而シテ之ガ爲メ自己ト醸造家トノ決濟ニモ影響スルニ至ルベキヲ以テ成ル可ク新規取引ニ付テハ信用ヲ調査シ、又ハ現金取引ヲ以テナス様注意スル要アラン。

## 三、小賣商ニ關スル缺陷及改善意見

小賣商ニ關スル缺陷、例ヘバ原價以下ノ販賣、不當ナル景品付販賣、廉賣ノ目的ヲ以テスル不良酒ノ販賣、又ハ量足ラズノ販賣ノ如キハ、主トシテ前章ニ述ベタル諸多ノ理由ニ基ク當業者ノ競争ニ胚胎スルモノナルヲ以テ、之ガ原因ヲ艾除スルカ、又ハ之ヲ輕減スルノ方策ヲ講ゼザルベカラズ。然ラバ之ガ原因ヲ艾除又ハ輕減スルノ方法アルヤヲ見ルニ、先ヅ大震災ニ依ル打擊ハ獨リ酒類業者ニノミ限ラザルモノナルモ、之ニ依リテ招來セラレタル資金ノ枯渴ハ、同業者ノ節約ト金融機關ノ整備トニ俟タザルベカラザルヤニ認メラルルトコロニシテ、市街地信用組合ノ施設ヲ利用スルガ如キ其ノ一方法ナランカ。

同業者ノ過多、區劃整理ニ依ル購買者ノ減退等ニ基ク打擊モ亦絶對的ノモノニシテ、之ガ對策トシテ「アパート」「ビルディング」等ノ増設ヲ稱フルモノアルモ「アパート」ニ付テハ地價、空地ノ有無等ノ關係モアリ、又「ビルディング」ニ付テハ假令之ヲ増設スルモ、畢竟住宅ニアラザルヲ以テ、必ラズシモ之ニ依リテ所期ノ目的ヲ達成シ難カルベシ。要スルニ本問題ハ市内既存酒類小賣業者ノ郊外移動ヲ俟ツテ、解決セラルベキ問題タルベシ。殘ルハ百貨店、公私設市場トノ關係ナルガ、最近此ノ種ノ施設ハ時流ニ投ジ、漸次増加スルノ趨勢ニ在ルヲ以テ、小賣商ハ之ガ脅威ヲ受クルコト更ニ加ハ



ルモノト見ザルベカラズ。サレバ何等カ對策ヲ設ケテ、兩者ノ協調ヲ計ルヲ適當トセン。之ガ爲メニハ現在大阪ニ於ケル市場ニ於テ實行スルガ如キ方法、即市場内ニ於テ販賣スル酒（壘詰）ハ、一般小賣商ニ於テ販賣スルモノト同一銘柄ノモノト雖モ、其ノ名稱ヲ其ノ儘使用スルコトナク、例ヘバ雪、月、花ノ如キ市場内専用ノ商標ヲ添付シ、以テ一般小賣商トノ緩和ヲ計ルガ如キ其ノ一方法ナランカト思料セラル。

商取引組織及系統ニ關スル調査刊行一覽

品目	刊行年月
一、木炭	昭和二年十二月
二、麻織物	同 同
三、棉花及綿絲	昭和三年八月
四、人造絹絲	同 同
五、石油	同 同
六、生絲	同 九月
七、毛絲	同 十二月
八、石炭	昭和四年六月
九、漆器	昭和五年三月
一〇、蔬菜及果實	同 同
一一、輸入肉及豚肉	同 同
一二、砂糖	同 同



卅 39 73

- 一三、内地向綿織物
- 一四、木材
- 一五、陶磁器
- 一六、内地向絹、人絹及交織物

昭和五年三月

同 同

同 同

同 十二月



六分

一、西、大、村  
一、西、大、村  
一、西、大、村

一、西、大、村  
一、西、大、村  
一、西、大、村



27.  
—  
34



